コース ３５　中（なか）　山（やま）

リーダー　　ＣＬ　K/T　　ＳＬ　M/T
実 施 日　　平成２１年１１月　３日（火）　　天候　晴れ
参 加 者　　２６（男性　７　女性１９）
グレード　　Ａ上～B

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備　　考
新津駅西口		５：50	区役所前　６：00
三条燕 IC		６：40	長岡 JCT を過ぎて次第に風雨烈しくなる
滑川 IC		９：22	富山県に入ると（トンネル抜けて）晴れて驚く
馬場島登山口	10：07	10：40	案の定、登山口から雪ジグザグの急登を上る
大杉広場	11：50	12：00	急登はここまで、杉の老大木が林立する
中山山頂	12：40	13：20	積雪約 30cm、晴れだが、剱はガスで見えない
馬場島登山口	14：50	15：00	雪は大分溶けかかっているが、慎重に下山する
剱岳早月尾根登山口	15：05	15：35	今年は、紅葉は既に終り霜枯れの様相
剱岳眺望の橋	16：00	16：15	復路、早月川の橋で、雪の剱岳全容を見る。ラッキー
滑川 IC		16：52	往路と同じく、有磯海、米山 SA で休憩
新津駅西口		20：15	新潟県はずっと雨、他県との違いを実感

山行等概要（幹事のコメント）

・ 北から寒気団が下がってきて、11 月 3 日は、北日本から北陸一帯にかけて「雨から雪」予報。そこで、担当者としては、皆が実施の有無を心配していることであろうと思わんばかり、場合によってはコース・方面変更も考慮して、急遽、前日、縦走電話で「明日は予定通り実施する。但し、方面は相談するので、一応長靴も持参のこと」と伝える。

中山山頂　-剱岳眺望の山-

・ 当日、出発後、早速バス車中で皆さんの意向を尋ねる。
　1.　予定通り馬場島登山口まで行き、状況次第で　(1)予定通り中山に登る。
　　(2)剱岳登山口付近散策後、車を返して春日山へ登る。
　2.　上越 IC で下りて、春日山、高田公園散策に切替える。
　結果は全員１.で、これは担当者の内心(本心)と一致した。

しかし、長岡 JCT を過ぎてから、次第に風雨は烈しさを増し、バスも押されがちで怖い位だったが、県境最後の 26/26 のトンネルを抜けると、そこはなんと晴れの空！！中山は登山口から雪だったが、往復なら大丈夫と判断し登山を果す。

・ 帰路、早月川の橋で、剱岳がしだいに雲を払い、新雪の全容が夕日に輝きながら姿を現してくるのを眺望し、正に一同の感激は極まれりとなった。

新雪の剱岳(つるぎ)や神の降り給ふ　　(K)

「中山登山（1255m、剱岳展望の山）の感想」

(1475)　A/W

(1)前日の天気予報は「山は雪」

11 月３日といえば、晴れの特異日となっていて、天気には何の心配もしないで、申し込みをしたのだが、日が近づくと、「今シーズン最低の気温、山は雪」という予報になった。頭は 7 月にあった、大雪山での遭難事故で、未熟者は無理などコメントのニュースであった。前日、8 時ごろ「入浴と長靴の準備」と連絡があり、まあほっとしてついていくことにした。

当日夜明けには雨もやみ、青空も出ていた。途中、リーダーから「中山の登山口まで行き、そこで判断するか、上越の春日山と温泉にするか」と提案され、不安がっていた私を含め多数が中山までいくと決めた。ところが、上越を過ぎたころから、霙から雪になり、道路わきは積雪があり、不安の声がちらほらと。

(2)幻想的な紅葉の新雪

県境を過ぎ、滑川インターを降り上市町に入ってくると晴れてきて、県道剱岳公園線の左右の山々の紅葉に新雪がかぶり、幻想的な風景、ほんの垣間見だが「あのギザギザとなって切り立った雪山が剱岳、大窓、池の平山、小窓など」教えられ、太陽の輝きに照らされて、近景、遠景とこれだけでも、満足と思った。

中山登山口Ｐ －剱岳はガスの中－

(3)巨大な古杉が迎えてくれる

新雪の登山など、初めての経験で、急な登りが続き、時々雪を重くかぶった枝にぶつかりどっと雪に見舞われたが、意外と登りやすかった。しかし、危険と隣り合わせという思いで、耳はリーダー

の注意、足元ばかり見ていたので途中の景色は眼中になかった。

が、大杉広場に着く手前から、古代から、どのようにして、自然と耐えたのか、くねり、枝分かれした巨大な杉が現れ始め、目を見張った。広場では、前剣、大日岳、奥大日岳、展望も良く、巨大な古杉に守られた安らぎに感謝した。このような経験は、苦労して登ったかいがあったというもの。さらに頂上を目指すと、積雪は深くなって、じっとしていると寒い。危険と隣り合わせを呪文のように繰り返し、滑らないようにひたすら足元を見て登った。

（4）頂上でのパノラマ展望

頂上では、主峰は雲に隠れて見えないが、それでも、池の平山、から大日岳、まで、写真にあるような展望が開け、天気予報が外れたことに感謝した。雲が晴れるまで眺めたいところだが、寒くなって、水筒の湯がすぐに冷めてしまう。30 分しかいられなかった。

（5）下山で観た紅葉

予定ではトチの木平展望所を回って早月尾根登山口に降りることになっていたが、リーダーの、新雪の程度がわからないので、元のところを戻ったほうが安全という指示で、登路を降りた。陽が照ったせいか、雪もずいぶん解け、地面が出たり、つけられていた階段も出はじめてきた。もっと歩きやすいところだったのかなあと思った。今度は、雪で垂れ下がった枝に見舞われなかったし、更に、見事な紅葉に、感激をしながら、無事下山した。

(6)白く、輝いている剱岳

予定の下山道の早月尾根登山口まで、バスで行き、周辺を歩き回っていると、遠くの雪山がやや傾いた太陽に照らされて輝いていた。前剱だろうか（？）。ギザギザしていないが美しく立派だ。本当に昨日の悲観的な気分は吹っ飛び、気分爽快。ほぼ予定の時間通りにバスの住人となり帰路に着いた途中、早月川を渡る橋で、剱岳展望の絶景ポイントがあり、降りて待つこと 15 分、雲が切れ、徐々に剱岳がくっきりとみえた。

(7)月光に照らされた連峰

バスの中で、夕日に映えて、輝く紅色の「表」剱岳連峰を見ながら、更に、日が沈むと満月が大きく登ってきて、月光に照らされた連峰が美しかった。

高速道にはいってからは、自己紹介を兼ねた（？）意見や感想を交わしながら、無事、予定の時間に、秋葉区役所に到着した。

天気に翻弄された、山行であったが、美しい自然を満喫した。

指導してくださった皆様に感謝いたします。また、タイムコースを執る余裕もないもので、不十分な紀行になっていますが、お許しください。